「令和8年度 防災・伝承セミナー in大崎」の開催 ～吉田川昭和61年8月5日洪水から40年～

国土交通省
北上川下流河川事務所

- 令和8年11月13日（金）大崎市において「防災・伝承セミナーin大崎」を開催し、地域の関係者ら約480名（会場約360名、オンライン120名）が参加。
- 本セミナーは、吉田川沿川の地域に甚大な被害をもたらした昭和61年8月洪水の発生から40年の節目を迎え、これまでのハードとソフトが一体となった取組を地域住民や関係機関が連携し、「水害に強い地域」として再生してきた軌跡を振り返りながら、災害から学んだ教訓を地域の共有財産として語り継ぎ、未来へ伝承していくことを目的に開催。
- 中北英一京都大学総長特別補佐名誉教授による基調講演、佐藤翔輔東北大学災害科学国際研究所准教授によるモデレートのもと、２人のコメンテータを交え、吉田川で活動するりゅうちるネットワーク並びにNIPPON防災資産に認定されている４団体によるパネルディスカッションや地元の鹿島台小、大郷中学校の児童・生徒による未来へのメッセージ発表が行われた。



開催概要

【日　時】：令和8年11月13日（金）13:00～16:00
【場　所】：村田工務所 パタ崎さんHallおおさき大ホール
【主　催】：北上川下流河川事務所、大崎市、（一財）3.11伝承ロード推進機構

1. オープニング映像上映
2. 主催者挨拶（東北地方整備局長、大崎市長）
3. 基調講演：「気候変動とともに生きる」
   京都大学総長特別補佐名誉教授/(一財)日本気象協会顧問 中北英一氏
4. パネルディスカッション
5. 未来へのメッセージ 鹿島台小学校・大郷中学校の児童・生徒のみなさん

基調講演（中北英一氏）



中北英一氏による基調講演の様子

講演要旨

- 近年、全国各地で発生している豪雨災害は、地球温暖化の影響が顕在化したものであり、さらに今後、気候変動によって水災害の激甚化・頻発化することが科学的に裏付けされている。
- 気候変動による影響は、水災害に留まらず、水資源にも影響を及ぼし、気象が極端化することが予測されている。
- 科学的な気候変動将来予測を軸に治水インフラの増強や流域治水、危機管理、自助・共助といった防災力向上を図り、後悔しない気候変動適応策を講じていくべきである。

パネルディスカッション（NIPPON防災資産認定団体等）


パネルディスカッションの様子



■各団体の活動経緯や取組内容、今後の継続に向けた課題や取組の方向性について意見を交わした

未来へのメッセージ発信（鹿島台小学校児童５名、大郷中学校生徒４名）


鹿島台小学校児童によるメッセージ発表の様子

■鹿島台の水害の歴史、出前講座や新聞記事を活用した防災学習での学びや取組が披露され、災害を風化させることなく、未来に向かって継続的に取り組んでいくことを発信した。


大郷中学校生徒によるメッセージ発表の様子

■令和元年東日本台風による大郷町の被害を改めて振り返り、校外学習や出前講座の学びや取組が披露され、今後、自分たちにできることを発信した。